

開園45年目を迎える大森山

園長 小松 守

今年は大森山動物園開園45周年という節目にあたります。大森山公園の建設を機に1973年に前身の千秋公園児童動物園の精神性を引き継ぎ、大森山で新スタートを始めてからのことです。秋田の動物園としても70年近い歴史を刻んできたこととなります。

この間の様々な取り組みの中、最近10年は「動物と語らう森」をテーマに掲げながら動物園づくりを進めてきました。人と動物がより近く、そして動物と「こころ」を通わせてほしいという願いを込めたテーマです。テーマを掲げながら活動をする動物園はあまりないようですが、大森山動物園の特徴になっています。それは、動物園に対する市民理解、ネーミングライツパートナーの秋田銀行様をはじめ多くの支援や応援、そして忘れてならないのはスタッフの理解と創意工夫、地道な取り組みのたまものです。

結果として、新たな大森山のステージを築くことができたようにも思います。豊かな自然環境に包まれながら、動物園は人と動物にやさしい空間、お客様が「幸せな時間」を感じとれるスポットに成長しはじめています。

に思えます。ガラス越しに目の前でフラミンゴの子育てをお客様がやさしく見守る風景はそんな一端を現しています。博物の領域を超え、多様な動物との出会いとふれあいが人の心にひびくユニークなスポットになってほしいものです。

こうした動物園内活動にとどまらず、最近では地域連携や多方面のつながりづくりを模索する動きも出てきました。動物園が秋田市の都市装置としてどう役割を果たせるのか、歴史を振り返りつつ節目の年を機に改めて考えながら、より多くの人に愛されるための動物園づくりに歩みを進めていきたいものです。今シーズンも大森山動物園をどうぞよろしくお願い申し上げます。



フラミンゴのヒナとそれを見つめる来園者

こんにちは!

あかちゃん

8月以降に大森山で生まれた赤ちゃんをご紹介します。



おまめ(8月)



おまめ(10月)

フラミンゴ

8月17日にチリーフラミンゴ、8月24日にヨーロッパフラミンゴのヒナが生まれました。おそらく日本一子育ての様子がお客さんの近くから見える巣だと思えます。順調に成長し12月にはずいぶん大きくなりましたが、まだ親から口移しでミルクをもらっています。



ヒナ(8月)



ヒナ(12月)

コモンマーモセット

8月19日に3つ子で生まれました。残念ながら1頭は5日目で亡くなりました。お母さんのおっぱいをあまり飲めなかったようです。残った2頭のうち、もう1頭も小さく弱々しかったため、人工哺育に切り替えました。担当者が「おまめ」と名付け、体重の増減に一喜一憂しながら、数人で協力して育てました。今は家族と一緒に暮らせるようにトレーニング中です。

このほか、アカカンガルーに赤ちゃんが生まれています。

よろしくね!

仲間入りした動物たち



チンパンジー

10月18日に横浜市野毛山動物園から可愛いメスのチンパンジー「ルイ」がやって来ました。ルイのお父さんは大森山で生まれ、15年程前に横浜へ貸し出したコブヘイです。先輩チンパンジーをはじめ、担当者とも仲良くなってもらいたいです。



イワシャコ

10月30日に東京都多摩動物公園からイワシャコ4羽(オス2メス2)がやって来ました。雪の動物園からキジ舎で展示場デビューしました。隣のライチョウに比べて動きが活発で、見ていて飽きません。



ユメ(手前)とハルカ



ノゾム(オス)

キョン

11月18日に東京都立大島公園からキョン3頭(オス1頭、メス2頭)がやって来ました。これまでオス1頭だったのでにぎやかになりそうです。暖かい大島から秋田の環境に慣らすため、外での展示は春からの予定です。

元気でね!

大森山を後にした動物たち



ダイアナモンキー「ウーロン」

ダイアナモンキーのウーロンが札幌市円山動物園に引越しました。ダイアナモンキーは希少種で、繁殖計画が立てられている種類です。札幌で新しい家族をつくり、早くお父さんになってもらいたいです。

ヨーロッパフラミンゴ6羽が仙台市八木山動物公園に、カピバラ3頭が横浜市金沢動物園に、コモンマーモセット1頭が那須ワールドモンキーパークにそれぞれ繁殖を目的とした動物の貸出しをしました。

このほか、アカカンガルー、ポリビアリスザル、ケヅメリクガメ、シロフクロウが他の動物園等に旅立ちました。

飼育動物数 2017年12月末現在		
哺乳類	52種	333点
鳥類	28種	148点
爬虫類	11種	24点
両生類	2種	3点
魚類	3種	42点
無脊椎	1種	23点
合計	97種	573点

訃報 忘れないよ...



ポニー「アルファー」(9月13日死亡)
アルファーは2007年3月に大森山動物園にやって来ました。お客様とのふれあいを楽しんでいる一方で、飼育員のブラッシングを嫌がる頑固な所もありました。数年前に足を痛め座っていることが多くなり削蹄などの対策をしていましたが、急に立てなくなり、数日後息を引きとりました。

ヒツジ「モッコ」(11月6日死亡)
アカカンガルー「ザラメ」(10月12日死亡)
ヒツジのモッコは2005年の3月にまだ子羊で来園しました。年齢からか2017年の5月下旬から自力で立ち上がれなくなりました。
アカカンガルーのザラメは2歳のオスでした。歩き方がおかしくなり、関節に腫れが見られ、検査をしたところ、靭帯が断裂し、化膿していることが分かりました。
どちらも飼育員、獣医師が協力して治療に当たりましたが、これ以上治療しても回復が見込めず、苦痛を与えると考え安楽死という選択を取りました。とても残念です。

このほか、ニホンザル、インドクジャク、マーコール、インドホシガメが亡くなりました。